

# 砺波カイニヨ倶楽部会報

第二十五号

平成十四年十二月発行

発行所 砺波カイニヨ倶楽部

代表幹事 柏樹直樹

事務局 富山県砺波市表町七二十五 TEL 0763/33/6588

天野一男建築工房内

## クリ拾いやカキ採りを体験

### 少し屋敷林の掃除をして

平成十四年十月二十六日(土)、橋本武志さん宅(砺波市中村)で、カイニヨ倶楽部と「元気にとやま」県未来財団の共催で「屋敷林掃除と見学・クリ、カキ採り」の集いを行い、四十名が参加しました。

子供達は、「クリ拾い」を楽しみ、カキを「ハサ」で採る体験に興味をもち、競って取り組みました。

進行や案内の講師は、橋本さん(会員)が勤め、家の内部の説明もしてもらいました。砺波地方で、初めての自家発電を入れた、ガイシも天井に残されています。

終わりがけに、会の用意したブタ汁と、地元の祭礼日とあって橋本さん宅から赤飯も出され、一同晩秋の、のどかな一時をゆったり、腹いっぱいもらい、思い出深い一日を受け止めました。

参加した六人の子供達には「必ず、今日のことが焼きつき、生きていくにちがいない」(会員談) 例会となりました。

当日の例会を北日本新聞・富山新聞・チューリップテレビが取材、報道しました。



カイニヨ倶楽部

### 屋敷林の役割を理解

#### カキ摘み、落ち葉拾い体験

砺波カイニヨ倶楽部と「元気にとやま」県未来財団の共催で、砺波市中村の橋本武志さん宅で、十月二十六日(土)、四十名が参加した「屋敷林掃除と見学・クリ、カキ採り」の集いを行いました。

子供達は、「クリ拾い」を楽しみ、カキを「ハサ」で採る体験に興味をもち、競って取り組みました。

進行や案内の講師は、橋本さん(会員)が勤め、家の内部の説明もしてもらいました。砺波地方で、初めての自家発電を入れた、ガイシも天井に残されています。

終わりがけに、会の用意したブタ汁と、地元の祭礼日とあって橋本さん宅から赤飯も出され、一同晩秋の、のどかな一時をゆったり、腹いっぱいもらい、思い出深い一日を受け止めました。

参加した六人の子供達には「必ず、今日のことが焼きつき、生きていくにちがいない」(会員談) 例会となりました。

当日の例会を北日本新聞・富山新聞・チューリップテレビが取材、報道しました。

平成14年10月27日富山新聞



橋本さん宅と屋敷林



前庭で豚汁をいただく

## 「元気な屋敷林づくり」 実験

### 神島地区住民も協力

十一月九日と十一日の二日間、矢藤正友さん宅(砺波市神島)、屋敷林の「枝おろしと林内整備」の仕事が、砺波農地林事務所の主催で実施されました。

九日(土)、地元神島地区の区長さん等約三十名が枝運搬等の手伝いをしました。枝おろし作業は、砺波森林組合からの四名で行われ、屋根にのり出した枝の処理には、レッカーも使われました。

カイニヨ倶楽部から新藤正夫、柏樹直樹の両氏が参加し、手伝いました。九日は、アラルの降る寒い日でした。整備後の屋敷林を大いに見学して下さい。

整理のネライとして、カイニヨ全体のバランスと美観を保ちながら、建物への障害除去や通風を考え、スギの枝はつとめて、自然態のまままで維持することに配慮し、元気な屋敷林をつくることに主力を注いだものです。

## ☆雑誌にカイニヨ倶楽部が！☆

最近の雑誌等にカイニヨ倶楽部の活動を紹介した記事が掲載されています。

- 「らくていぶ」2002・vol10(秋・冬号) 特集「スローライフを始めよう」住まい編に、杉森孝一さんの屋敷林見学会の様子などを。
- 「住宅金融月報」2002・NO610 (十一月号)

地域の話題「砺波散居村の保全活動」の取材記事。

# 苦勞と楽しみ・あつくカイニヨを話す

## 入道家で「知事との対話」に参加

十一月十一日「知事のまちなまり」デーが砺波市で開かれ、カイニヨ倶楽部が「ふれあい対話」の場に招かれました。

入道忠靖さん宅（太田）での懇談に、十七名が参加し、約一時間、それぞれの思いや苦勞を話しました。参加者は、市内在住で、日頃の活動に参加したり、屋敷林にこだわり、いろんな事をしている方に案内しました。

知事は、発言を受けた後、「田園空間事業をとり入れた、いきさつや、砺波の散居と屋敷林への期待、今後の県としての協力」について話されました。

又、対話の途中で「知事にもカイニヨ倶楽部に加わってほしい。年会費は千円です。」との誘いに、即座に、入会されました。



入道家の屋敷林と庭の案内(中央が知事・右に市長)

- ☆会員からの発言は、次のような内容です。
- ・屋敷林を提供し、子供達と一緒に掃除やクリ・カキ採りの体験をした。これから交流には協力したい。
- ・カイニヨツウリズムをやって、県外からも来てもらった。「カイニヨイズム」にこだわりソフトの魂を大きくしたい。
- ・民宿体験をやってみて、人と交流できる楽しみをもらった。
- ・子供と一緒に倶楽部の行事に参加し、屋敷林内を自由に走らせる事だけでも良い。
- ・屋敷内に色々な樹木を入れ、四季の変化を楽しんでいる。妻も近年やっとなりて理解してくれるようになった。
- ・ケヤキの大木四本を守っている。雨樋

のつまることに苦勞しているが、夏は、本当に涼しい。

九十年生ほどのシダレザクラにこだわ

り続けている。防除が大変だ。

・屋敷林の管理はひどいが、最近のローソク状のスギにはしたくない。

・スンバの始末は大変で、特に雨樋の詰まる事に悩んでいる。妙案を見つけた

い。

・戦中の供木で一変したが、百年育てるつもりで木と共に生きたい。

・木やアズマダチを残したいと思っ

ては、長い目で人を育てる事が大切ではないか。

・カイニヨは、緑の島だし、日本一の姿だ。

・町から出て、屋敷林のある家の近くで住んでいるが、心が和む。

・カイニヨは、個人のものというが、景観の中心だ。屋敷林の公共性を理解して欲しい。

・二十世紀の記録として、写真に残してきたが、これからも撮りつづけた

い。会員は、顔も考えも全て違い、個性をもっている。その力を結集して、砺波地方の良い景観の維持につなげたい。



ふれあい対話(入道家の座敷で)

対話に先きだつて、入道さんと、佐伯安一さんが「入道家の建物」について説明されました。

又、柏樹直樹代表幹事は、カイニヨ倶楽部の主旨と活動・カイニヨにこだわる本意を説明した上で、二つの願いとして「散居は農業と切り離せない。その農業を元気にする

施策が欲しい。又、田園博物館構想の真の力は人づくり。その事業は、二十年、三十年の

スパーンで考えて欲しい。」と訴えました。

約一時間余りの知事との対話は、終始和やかにそれぞれの思いの一端を表明しあう

場となりました。帰りぎわ、知事と上田県議

は、「会員になるから」として事務局長に会費を託されました。